

めぐみ 慈恵

鎮西敬愛学園通信

No. 77 2018年 冬号

敬愛幼稚園／敬愛中学校／敬愛高等学校

〒800-0035 北九州市門司区別院6番1号

中・高 TEL 093-381-3537 FAX 093-391-8049

幼稚園 TEL 093-371-2267 FAX 093-391-9385

敬愛小学校

〒800-0057 北九州市門司区大里新町11番7号

TEL 093-381-0611 FAX 093-381-0601



高2 シアトル・バンクーバー修学旅行（グランビルアイランドで撮影）

ことば

行く言葉が美しければ

返る言葉も美しい

人生はキャッチボールのようなもの

野村克也

お釈迦さまの教えの説き方を対機説法といいます。それはまた、応病与薬ともいわれ、医師が病にに応じて薬を与えるように、相手の性格や能力、状況に合わせて聞く者にとって最も適切な教えの説き方をされました。そうして、お釈迦さまの教えは、時間を超え、空間を超えて、多くの人の心に届けられました。

さて、私たちは、日々だけの言葉を使い、それらの言葉に対してどれだけ意識を向けているでしょうか。例えば、キャッチボールを上手く続けるために、相手のことを考え、丁寧に、受け取りやすいように、ボールをコントロールしようとする努力です。同様に言葉のやりとりも、相手に応じて、状況に応じて、受けとめやすいように、わかりやすいように、どうすれば自分の思いが伝わるかを考えながら、言葉を選んで投げかけなければなりません。そのようにして、言葉をおくる相手に心を寄せるとき、そこに自ずと美しい言葉が生まれるのです。『行く言葉が美しければ、返る言葉も美しい』のは、言葉に込められた相手への思いが伝わるからだと思っています。

とかく自己中心的な思いから離れない私ですが、だからこそ意識して、他者を思いやる心を忘れずにいたいと思います。心は言葉を紡ぎ、言葉によって心は育まれます。あらゆるものが私にとってかけがえのない存在として領けたとき、それらに対する言葉は、温かく優しく、相手の心に響くものとなるでしょう。

宗教科 谷川宏済

敬愛高等学校

第69回卒業証書授与式

（浄土真宗本願寺派前裏方様）お言葉（

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。ご家族の皆様のお喜びもさこそと拝察致しまして、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

卒業生の皆様は、卒業の喜びとともに、多くの人に支えられた、助けられた、励まされたなど、感謝の思いをもって、この場に臨んでおられることでしょう。それは、敬愛高等学校で学ばれた証だと思えます。お釈迦様の言葉を聞き、親鸞聖人のお教えに触れ、ご自分の心を見つめ、育てていただきました。

親鸞聖人は、ご自分を厳しく見つめられ、阿弥陀如来様の光に照らされて明らかにした人間の闇を「煩惱具足の凡夫」とお示しになりました。言い換えれば、「利己心を離れない私」、「自分の思い通りにならないこ

とに苦しむ私」、「場合によっては、自分を見失い、何をしてしまつか分からない危うい存在」ということでしょう。その私を阿弥陀如来様は、「闇を抱えているからこそ救わずにはおれない」とご本願を起し、南無阿弥陀仏のお名号となつてはたらいてくださいます。

『観無量寿経』というお経には「光明遍照 十方世界念仏衆生攝取不捨」と、「阿弥陀様の光が広くすべての世界を照らし、念仏の衆生をその光の中に摂め取って捨てない」というお言葉があります。親鸞聖人は『お正信偈』の中で「一切群生蒙光照」と、「すべての生きとし生けるものは、阿弥陀様の光の中にある」とお示しになりました。光の届かないところはなく、すべてを照らしてくださいます。そして、阿弥陀如来様の光に照らされて、私どもの心も柔らかく自由になり、人間に生まれたことを喜ぶことができます。

今日の社会は、ビッグデータに人工知能、グローバル化に地球温暖化と、変化することや地球規模の問題が当たり前の時代になりました。科学や技術の発展に、日々の生活がなかなか追いつけません。皆さんは、学校を卒業しても、学び続けることやコミュニケーション能力や協力する力、正解のないような問題を考え続ける力が必要となるでしょう。

浄土真宗の僧侶で、教育者でいらした東井義雄先生は「根を養えば樹は自ら育つ」とおつ

しゃいました。敬愛高等学校で皆様は十分にいのちの根を育ててくださいました。卒業しても手を合わせると時を持ち、ご自分を見つめると同時に、阿弥陀如来様のお救いの中にある安らぎを感じ、自分で考え、動き、必要な知識を得てください。

若い方のお手本となるべき国の指導者が、欲望を満たすことが幸せで自分は正しいと、真実より自分に都合の良い解釈を通そうとするあり様ですが、敬愛高等学校で、自分一人の幸せではなく、他のいのちを敬い、ともに生きる人間の姿勢・生き方を学んだ卒業生の皆様には、何が真実かを見抜き、失敗を恐れず、明るい未来を目指し、多様な価値観の人々と互いに敬い、協力して、問題の解決を図る社会の一員として活躍くださることを期待致しまして、お祝いと致します。

（文責 鎮西敬愛学園）



答 辞

うつらかな日差しに、そこはかとない春の
気配を感じられるようになった今日、私たち
155名は、この学び舎を巣立つ日を迎えました。
ご多忙の中、ご臨席を賜りました名誉学園長
様をはじめ、御来賓の皆様、先生方、保護者
の皆様、在校生の皆さん、このように盛大な
卒業式を挙行していただき、心より御礼申し
上げます。

長かったようにも短かったようにも感じら
れる、私たちの3年間。思い返せば、3年前
の春、この別院の入学式で私たちは出会いま
した。その日は、桜が満開の見事な晴天でし
たが、私たちの心には不安と緊張が大きく渦
巻いていました。しかし、それはほんの杞憂
に過ぎず、あつという間に距離を縮め、クラ
スのまとまりを感じられるようになりまし
た。新しい学校、新しい制服、先生や友達と

の関係、全てが新鮮で、ぎこちないながらも
心躍る毎日を過ごしたことを覚えています。

2年生になると、部活動にも力を入れるよ
うになりました。私は、生徒会執行部で、様々
な出会いによって、多くの大切なことを学び
ました。一人ではできなかったことも、共に
喜び合える多くの仲間がいたから乗り越える
ことができました。自分の不甲斐なさに、悔
しい思いを噛みしめることもありましたが、
その度に自分が少しずつ成長することができ
たと感じています。

3年生となった夏には、高校最後の体育大
会を前にし、最高の体育大会にしようと必死
になりました。時に気持ちのすれ違いが仲間
内で大きな亀裂を生み、溢れる涙を抑えるこ
とのできない日もありました。それでも、体
育大会を成功させたい気持ちを抑えきれず、
がむしゃらに互いに向き合うことで、本番で
は、全員の心を一つにすることができました。
信じ合い、支え合うことで生まれた絆が、私
たちに大きな力と感動を与えてくれました。

在校生の皆さん、敬愛生としての誇りと伝
統を忘れず、皆さんらしい学校を創っていっ
てください。皆さんは、私たちの素晴らしい
後輩です。周囲からの言葉よりも、皆さんが
望むことを信じてください。皆さんの存在が
どれだけ私たちの支えとなり、私たちの心を
温めたでしょう。忘れないでください。卒業
しても、私たちはずっと皆さんの味方です。
本当にありがとうございます。

次に、私たちを力強く支えてくださった先
生。先生方の忠告に素直になれず、困らせる
ようなことをたくさんしてしまつて、すみま



せんでした。ですが、進むべき道を見失つて
しまった時に、私たちが探すのは、いつも先
生方の姿でした。厳しく叱られたこともあり
ましたが、今ではそのお叱りの言葉さえもら
えないと思うと、寂しく感じてしまいます。
今後は、先生方の教えを心に刻み、精進して
いきます。ありがとうございます。

そして、今日まで私たちを育ててくれた
お父さん、お母さん。この学校で溢れるほど
の思い出を作ることができたのも、お父さん
とお母さんが一生懸命働いて学校に通わせて
くれたおかげです。お母さん。いつも私をそ
の優しい腕の中に包み込んで大きな愛情を示
してくれたね。お母さんは、私のたった一
つの太陽です。お父さん。交わす言葉が少な
くても、お父さんはいつだって私が信じる道
しるべでした。将来の行きたい道がきまった
のは、お父さんのような立派な人間になりた
かったからです。世界で一番尊敬するお父さ
ん、お母さん、私を生んでくれてありがとう。
これからもよろしく願います。

最後に、3年間を共に過ごした、かけがえ

のない友人たち。どんな時も、そばに皆の温
かみを感じていました。教室でいたずらを仕
掛け合った休み時間。先生に叱られるまでお
喋りに夢中になった放課後。帰りに皆で見た、
あの美しい夕日。個性豊かな皆がいたから、
退屈な日なんて一日もなかった。皆との出会
いは、いつまでも大切な宝物です。本当にあ
りがとう。

今日で私たちの高校生活が終わります。約
束せずとも皆に会えた私たちの学校、さよう
なら。私たちの道はそれぞれ違いますが、心
に生き続ける数々の思い出がいつまでも私た
ちを照らし、前へと進む勇気をくれるでしょ
う。最後になりましたが、鎮西敬愛学園の更
なる発展と皆さんのご健勝を心より念じつ
つ、答辞とさせていただきます。

平成31年2月15日

卒業生代表 蟻木 百花



宗教研修（3年生）

11月16日（金）・17日（土）、一泊二日の宗教研修を行いました。親鸞聖人が得度をされた「9歳」をご縁に、毎年、3年生が京都を訪れています。今年で14回目を迎えます。

まず、親鸞聖人の誕生の地・日野誕生院と得度をされた青蓮院を訪問。その後、西本願寺で参拝式を行いました。児童代表の井上京一郎さんは、「これまで、親鸞聖人様や阿弥陀様のみ教えを学んできましたが、今回の訪問を通して、『いのち』を大切にする心と『ありがとう』の感謝の気持ち』の大切さを改めて学ぶことができました」と発表してくれました。

また、龍谷総合学園加盟校である、京都女子大学附属小学校と京都女子大学を訪問し、交流を深めました。大学では、英文学科の学生さんと一緒に英語の講義を受講し、附属小学校ではiPadを使い、北九州の魅力を3年生に紹介しました。附属小学校の長江教頭先生からは「毎年、お互いの子ども達にとって素晴らしい経験です。」と言っていたことができました。今年の3年生も大きく成長することができました。

特集
敬愛の教育 6年生
茶道 礼法指導

本校では開校以来、茶道のお点前を通して、日本文化に触れ、「おもてなしの心」や「美しい姿」を学んでいます。1年生から学習を始め、学年が上がるごとに作法が一つ一つ加わり、最高学年の6年生になると、自分達で最後のお茶会を企画・運営します。子どもは緊張しながら練習に励んでいました。

世界に一つだけのオリジナルの抹茶茶碗を使い、日頃の感謝の気持ちを精一杯込めて、お茶を点てた最後のお茶会。子ども達から素敵なプレゼントももらった保護者の方は、笑顔に満ちあふれていました。卒業前のお茶会で、子ども達の成長をまた一つ感じることができました。

平成30年度
学習発表会

本校の学習発表会は、1年間の集大成と位置付け、今年度学んできたことを披露する場です。大人顔負けの素晴らしい発表に、会場は大きな拍手に包まれました。オープンスクールで参加された年中児の保護者の方からは、「みんなが一つの目標に向かって頑張り、素晴らしいチームワークでした。」と感想をいただきました。

今号では1年生の英語を使った群読劇と4年生の合奏・合唱を紹介いたします。

1年生全員で息を合わせ、英語と日本語をすべて暗誦して、交互に朗読しました。

この1年間、英語の授業でフォニックスを学習し、正しい発音を身に付けることに取り組んできました。その学習の成果をこの学習発表会にて、存分に発揮してくれました。抑揚を付けたり、タイミングを工夫したり、感情表現を工夫したり、1年生とは思えない、素晴らしい発表でした。

家族や今まで支えてもらった方々への感謝の想いを込めて、合奏・合唱に取り組みました。リコーダーで演奏した「もののけ姫」は、高音のきれいな音を意識して演奏し、合唱では、アルト・ソプラノ・メゾソプラノと3パートに分かれ、美しいハーモニーを披露しました。合唱部にも所属している小溝さんは、「『ぎつとまた会えるね』の歌詞がとてもきれいなので、その情景が伝わるように歌いました」と感想を話してくれました。



合奏・合唱
～10歳の翼～（4年生）



群読劇 Play with me
～わたしとあそんで～（1年生）

幼稚園通信

マラソン大会がありました

敬愛幼稚園では、登園後毎朝マラソンをしています。その毎日の練習の集大成であるマラソン大会が2月20日（水）に行われました。肌寒い中ではありましたが、誰一人リタイアすることなく完走できたことは、毎日走った成果であり、と子ども達の成長の証だと嬉しく思いました。



ひよこぐみは五百メートル、年少組は八百メートル、年中組は千メートル、年長組は千五メートルほどの距離を走りました。その頑張りには大人の方が元氣をもっています。

おうちの方が子どもたちを応援しながら一緒に走っている姿もあり、とても微笑ましく感じました。

上位入賞できて喜ぶ子どもがいる一方、思う結果が出せず悔し涙を見せる子どももいました。それぞれの立場で思うことがあり、その気持ちこそが、これから先の成長に大きな役割を果たしてくれることでしょう。心も身体も、大きく大きく成長するマラソン大会でした。



ごっこ遊びを楽しみました

全学年、お遊戯室に集まり、ごっこ遊びを楽しみました。開店当日まで、各クラスで好きなお店を考え、この日に向けて準備を進めてきました。アイスクリーム屋さん、焼肉屋さん、カフェ、スーパー銭湯にお寿司屋さん、占いやさんやマジックショーまでありました。



コスチュームや看板、グッズは廃材などを使ってたくさん作り、各ブース、にぎやかなお店がオープンしました。子どもたちの発想は、とても面白く豊かです。占いやさんにお邪魔した園長先生は、「空からお金が降ってくるでしょう!」と予言されていました。

「こんなことしたい!」と、イメージを広げ、自分で考え、話し合い、方法を決め、行動に移す。幼稚園に埋もれているアクティブラーニングの種を、遊びの中で育てている毎日です。



修園旅行に行ってきました

2月15日（金）、16日（土）年長さんは修園旅行に行きました。少し寂しそうなおうちの方とは裏腹に、笑顔で手を振り、元気いっぱいに出発しました。秋吉台サファリランドに到着し、バスの車内から沢山の動物を見ました。次々と出てくる動物に大興奮でした。小動物にも触れ合うことができ、動物のかわいさに癒されたようです。



夜は、西長門リゾートホテルでお泊りです。オーシャンビューの部屋に子どもたちは大興奮。夕食は、ホテルの方にご指導をいただきながら、フォークやナイフを使ってテーブルマナーを学び、ごちそうをいただきました。また、大浴場にも入り、ホテルを満喫しました。楽しみにしていた、プライベートビーチで海辺の貝殻ひろいも素敵なお思い出の一つになったようです。

年長さんは、3月6日（水）のスポーツ大会で大きな行事はおしまいです。体操教室では、縄跳び、長なわとびが上手になり、逆上がりも出来るようになることを目指して頑張ってきました。一番最後に、その成果をお家の方に見て頂きます。卒園し進学先は、バラバラになってしまいます。今日まで、しっかりとした小学生力が育まれることを願いながら過ごしてきた毎日。御仏様の光のもと、つく、やさしく、たくましく育ってくれた年長さんたちが進学先でしっかりと歩んでくれることを願いながら送り出します。





「聞こえて遇つ」

インターネット上で洋服等を通販する会社があります。「ZOOTOWN」、その社長が前澤友作さんという方です。この方は近い将来民間人として月に宇宙旅行へ行くと言っています。目的は何でしょうか？小さいころからの夢、憧れ、それとも会社の認知度拡大…、ご本人のみぞ知るところです。

日本宇宙飛行士の秋山さん、横田さんなど、宇宙飛行士は宇宙へ行くことも目的のひとつでしょうが行ってからの活動も目的の一つとして注目されます。何のために赴くのか…誰のために果たしとげるのか、それによって世間の関心度は異なります。

初の宇宙飛行士ガガーリンの「地球は青かった」、有名なフレーズです。どの宇宙飛行士も宇宙から地球を眺めたら国境は見えなかったと言います。国境は地球に線が引いてい

るのではなく、人間の頭の中にあるものでしょう。

宇宙飛行士が宇宙船から宇宙空間に出るとショックを受けるのだそうです。それは上下がないからです。私たちの日常には天があり地上があります。しかし宇宙空間にあるのは無限に広がる闇だそうです。闇の中では上下も左右も認識できないのでしよう。その中にボツンと宝石のように光り輝く地球が眼前にひろがるのです。そしてその地球をいくら見渡してみても人間の創った物は肉眼では何一つ見えないそうです。境もなく、人間の創造物もなく、争いの火も見えず、あるのは生命を育み包みこむ美しい地球。宇宙飛行士はだれしもが思うそうです。境を争ったり、勝負にこだわったり、損得を睨んだり、その自分の姿がちつぽけで愚かに見えるようです。自分より大きなものに出会うと、純粋に自分の小ささや愚かしさ恥ずかしさに気づかされるものです。

私は前澤社長のように月に行く予定もきわめてないし、宇宙飛行士のような体験も生涯ないでしゅうから、したがって経験値としては持てません。「百聞は一見にしかず」

といいますが、濁った眼で見ることは案外本当のことは見えてないことかもしれません。

仏教には眼見と聞見とがあります。眼見とは仏様そのものを肉眼で目の当たりに見ることです。聞見とは信心のことです。「ホンマやなあ」と聞き受けて遇うのです。仏法を聴聞することは、自分の見識で確認することよりも、もっともっと大きな視野からの世界を聞きひらかせて頂くことです。そして仏様の広大無辺なお話を聞かせて頂くことは、自分の愚かしさ恥ずかしさを同時に知らされます。人間の小賢しい知識と経験はときに争いの火種となり、自分の都合による境界線を引き、自是非という誤った正義をかざす存在が私なのです。

我欲名声の先に見る世界と、人類のために行く宇宙飛行士が見てきた宇宙と、全てのいのちの上に悲喜共感してゆく仏様をご覧の世界はおのずと異なります。自分より大きな存在に出遇っている方は、我執我欲（とらわれ心、自己中心性）を超えた大いなる安心が与えられるのです。

表彰紹介

第22回 福岡県美しい景観選

絵画部門 中高生の部 佳作 高校1年 溝上尊（敬愛中出身）

第64回 青少年読書感想文全国コンクール

福岡県特選 中学1年 安達千紗（敬愛小出身）
福岡県入選 中学2年 牧野加奈（泉小出身）

美術部

第33回 福岡県高等学校総合文化祭美術・工芸展
デザイン部門 特選 高校2年 根本 奈菜（敬愛中出身）
平成30年度高文連美術・工芸部門北九州地区大会
平面デザイン部門 特選 高校2年 根本 奈菜（敬愛中出身）

吹奏楽部

平成30年度北九州吹奏楽コンクール
高等学校の部 Aパート 銀賞
第51回北九州アンサンブルコンテスト
高等学校の部 打楽器三重奏 銀賞

報道研究部

福岡県高等学校総合文化祭
写真部門 佳作 高校3年 江越 悠稀（敬愛中出身）
高校3年 難波 真菜（門司中出身）
高校2年 田中 里佳（敬愛中出身）

高文連北九州地区写真展

大賞 高校3年 江越 悠稀（敬愛中出身）
準特選 高校1年 角川 菜奈（松ヶ江中出身）
入選 高校3年 布谷 颯汰（敬愛中出身）
高校2年 杉本 望綾（長峽中出身）

競技かるた同好会

第49回太宰府小倉百人一首競技かるた大会
E級 準優勝 高校1年 林 享祥（横代中出身）

卒業生からのメッセージ

平成5年度卒業 細川 哲孝さん

在校生の皆さん、私は平成5年度に鎮西敬愛高等学校を卒業した細川哲孝（ほそかわのりたか）と申します。

現在は、ルネサスエレクトロニクス株式会社から出向の形で電機連合という団体で働いています。電機連合は、電機・電子・情報関連産業およびその関連産業の労働組合を結集した組織です。所属する組合員が56万人という大きな組織です。

そもそも、労働組合とは賃金やボーナスを会社に対して要求するだけではなく、休暇の日数や工場で作業する上での安全対策等、働く人の



「北米で1年間の研修（写真はハーバード大学）」（左側が本人）

立場から様々な要望を会社と交渉し、実現する事を目的にしています。電機連合は個々の労使関係（労働組合と会社）ではなく、団体として労働条件の改善だけでなく、産業全体の発展につながる施策について業界団体のみならず、政府とも対峙して対応を行う立場になります。

私は、大学卒業後にNECに就職、半導体部門に配属されました。半導体とは、スマートフォンから車まで様々な製品で使われる部品です。用途が広く成長が見込まれる分、国際競争にもさらされ、日本企業が単独で勝ち残るのが難しい業種の一つです。NECの半導体事業も日立製作所、三菱電機の半導体事業と統合し、ルネサスエレクトロニクス（株）になりました。労働組合の役員になったのは統合の少し前、それから私は組合役員の立場で会社の統合と再生に対して向き合いました。職場から様々な相談を受け、会社と交渉する中で責任感とやりがいが生まれ、徐々に労働組合の中で中心的な役割を果たす事になり、気が付けばルネサス労組の代表として電機連合に出向する立場となりました。組合役員になるために就職したわけでは



「藤波会関東支部の会合」（前列左から3番目が本人）

ありませんが、『置かれた場所で咲く』そんな気持ちで仕事に取り組んでいます。在校生の皆さんも社会に出て様々な変化がありますが、その場で全てを尽くすことが将来につながると思います。

一番大事なことを最後に。昨年からは敬愛の同窓会、『藤波会』の関東支部の支部長になりました。進学や就職で関東に来る際はご連絡ください。また、電機産業に関連する企業について就職を考えている方はいくつも相談に乗ります。お気軽にお声がけください。

高2女子 ダンス発表会

2月22日（金）の5、6限目に鎮西別院講堂にて、高校2年生女子によるダンス発表会が行われました。2学期スタートと同時に創作ダンスを開始し、テーマや音楽、振り付けなどを自分たちで決め、練習に取り組みしました。最優秀賞を目指すことはもちろん、見ている人たちを感動させ、想像を膨らませて楽しんでもらうことを目標に、本番では各チームの個性を十分に発揮しました。多くの保護者の方々にも観覧いただき、会場全体が一体となって盛り上がった発表会になりました。

（結果）

最優秀賞 KID！
（2年2組）
優秀賞 かがやき隊
（2年4・5組）
努力賞 えだまめくしよん（2年2組）



敬愛高等学校 SDGs へ取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。開発目標には図のような持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。OECD（経済協力開発機構）は、SDGs推進に向けた世界のモデル都市として、アジア地域で初めて、北九州市を選定しています。

昨年度から、高校1年生の総合学習で取り組み始めた地域企業連携学習をバージョンアップし、「地域活性化」をテーマにSDGsの8番目、11番目の解決に取り組みました。発表会には、北九州市や商工会議所の方々にもお越しいただき、生徒たちの発表をとて評価されていました。今回の発表内容をもとに、北九州市立大学の先生や学生のみなさんのご協力をいただきながら、地域活性化に向けて実行していく予定です。今後も産官学と連携した取り組みを行った教育を行っていきます。最後に、ご協力いただいた地域、企業の皆様ありがとうございました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



取り組みを通しての生徒の感想

この活動を通して私は少し成長できたと思います。まず、一つ目に様々な角度から物事について考える力が身についたのではないかと思います。「身近な医療とは？」という課題について、地域の人々だけでなく、Zonesの立場、病院や薬局からみたメリット・デメリットは何かなど、様々な立場になって自分たちの意見を考えることができました。二つ目に、チームで分担した自分の役割をきちんと果たすことの大切さを改めて実感しました。

中村月子さん（緑丘中出身）

フィールドワークでは、グループのみんなで協力して歩行者やお店の方にお話を聞くことができ、自分自身では考えつかないような貴重なご意見をもらうことができました。また、発表のためのスライド作りでは、班の人とよく話し合いながら作成していくことができました。この学習を通して、社会の仕組みや自分が思っているほど世の中は甘くないことを心から実感することができました。

藤田ほの香さん（横代中出身）

全く知らない商品を一から調べて、いろいろなところに行き調査をするということをしたことがなかったので、とても新鮮な感じがして良い経験になりました。また、全く知らない人たちに伝えることが難しく、よく考えて作らないと通じないということを学びました。社会の商品の流通や、競争社会を少しでも知れたので将来の自分にとって良い経験となりました。

古野怜児君（敬愛中出身）

このグループ活動をする中でコミュニケーション能力を鍛えようと同時にグループのみんなとの仲が深まり良い機会だと思いました。与えられた課題に対しての改善点を考えたり、自分の意見を言うのも苦手でしたが、徐々に自分の思ったことも言えるようになりました。

砂田青空さん（勝山中出身）

私たちのグループは大里商店街の現状を調べ、活性化するためのヒントを一人一人が見つけ、まとめることができました。高校生になって初めての経験だったので大変なことがたくさんありましたが、プレゼンを完成させ発表することができました。

林香蓮さん（富野中出身）

班の人と話し合ったり、わからないことは調べたり、一から自分たちでやるのは思った以上に大変でした。集めた情報をもとに、パソコンを使って、まとめるのはすごく難しかったけれど、班の人と協力しながら行うことで納得のいくものを作れたと思います。総合学習を通して、お互いの意見を尊重することの大切さ、みんなで一つのものを作りあげたときの達成感を味わえました。そして、一人でやるよりみんなでやったほうが、大きなものを得ることができると思いました。

佐野瑤さん（川中中出身）

○ご協力いただいた地域・企業の皆様
大里商店街様 門司赤煉瓦ブレイス様 グランド印刷様
シノハラ製作所様 NPO法人Zones様 宗文堂様
松柏園ホテル様 ゼンリンプリンテックス様
東武トップツアーズ様

